

看護業務の効率化

試行支援(コンサルテーション)事業

一般財団法人

脳神経疾患研究所附属

総合南東北病院

選択した取組(2019年度受賞)

「ユニフォーム2色制」と「ポリバレンタナス育成」による 持続可能な残業削減への取り組み

＜現在同様の取組を実施しているが、さらなる看護業務の効率化の実現にむけた支援を希望＞

支援施設 一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター

試行期間 2020/10/1～2021/1/31

プレゼン動画視聴はこちら ▶



すべては患者のために 救急医療から在宅医療まで



一般財団法人 脳神経疾患研究所附属
総合南東北病院



所在地 福島県郡山市

従業員数 1559名 うち看護職員数：568名(2020年12月1日現在)

病床数 461床 (高度急性期10床、急性期451床)

(地域医療支援病院・二次救急指定病院・地域がん診療連携拠点病院)

入院基本料看護配置 急性期一般入院料1

現状と課題

- 時間外勤務を行う主な理由に、「看護記録」「勤務時間外の医師からの指示受け」「処置介助」「緊急入院対応」があるが、特に医師が看護師の勤務を気にせず指示を出すことによる時間外勤務が課題であった。
- ユニフォーム2色制を2019年12月に導入し、勤務・非勤務のめりはりがつくようになったが、同時に始業時間前出勤が多い現状が見えた。
- 手術出棟準備・処置介助に加え、情報収集のための始業前出勤が多く、
①ユニフォーム2色制の取組の見直し、②ウォーキング・カンファレンス導入により、始業前の時間外勤務時間の削減に取り組みたいと考えた。

目標

■ 試行期間における目標

2021年3月までに始業時間前の労働時間を30分以内にする

(30分以内とした理由：通勤事情を考慮)

■ 施設の最終目標

時間外勤務時間をゼロにする

試行計画

2019年 8月	ユニフォーム2色制 導入を検討	● 看護管理室で検討し導入を決定 ● 所属長会議を経て、統括者会議で許諾を得る ● 看護部全体に説明 ● 色・素材の決定
2019年 12月	ユニフォーム2色制導入	● 時間外勤務の原因となっていた「医師からの指示受け」は、2色制導入により医師が日勤・夜勤者を区別するようになり、減少傾向に。 ● 2色制導入により、始業前の出勤者がかなり多いことに気づく。
2020年 10月	・ウォーキング カンファレンス導入決定 ・業務量調査の実施	● 支援施設から、始業前の時間外勤務削減にむけたウォーキングカンファレンスの有効性を聞き、導入を看護部で決定する。 ● 過去1年間の時間外勤務の要因、始業前時間外勤務の実態調査を実施。
11月/ 12月	・モデル病棟決定 ・導入に向けた業務整理	● モデル病棟スタッフへ説明。 ● 次の勤務で必要な情報(記録)の調査・情報共有のための記録の整理。 ● 情報収集の時間確保・ウォーキングカンファレンス導入のための業務整理。
2021年 1月	モデル病棟でウォーキングカンファレンス運用方法を決定	
4月	全病棟でウォーキングカンファレンスを開始予定	

■ ユニフォーム2色制

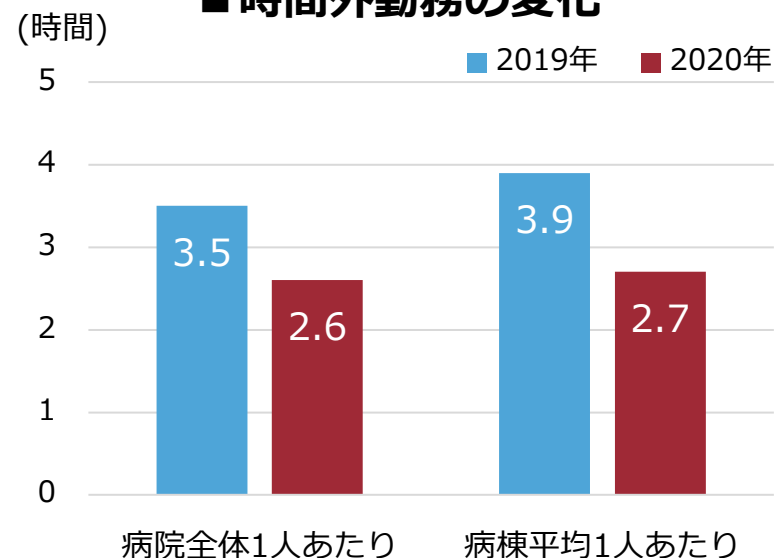
- 全病棟一斉にユニフォーム2色制を開始。
- 他職種等が使用していない色、かつ高齢患者が認知しやすいオレンジ色を、夜勤者のユニフォームとして選択した。
- 医局会、所属長会議を通して周知後、他職種・患者への周知を行った。



ユニフォーム2色制による成果・効果

- 看護師の日勤・夜勤の区別が付きやすくなり、医師からの勤務時間外の指示が減少した。
- スタッフ間の意識が高まり、勤務交代時の引き継ぎがスムーズになった。
- 時間外勤務時間が削減された。

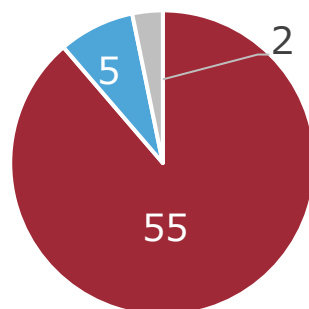
■ 時間外勤務の変化



■ ユニフォーム2色制導入後、医師の指示の出し方は変わったか

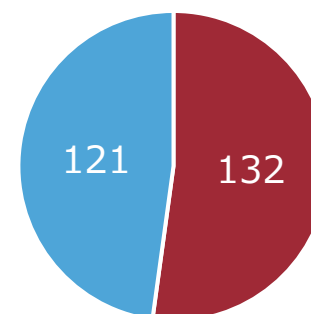
[医師]

- 変わった
- 変わらない
- 無回答



[看護師]

- 変わった
- 変わらない



指示出しに変化はあるが、医師によって対応が異なるため、その実感に職種間で差が出ている。

■ ウォーキングカンファレンス導入の経緯

- ユニフォーム2色制の導入によって明らかになった「始業前の時間外勤務時間」を削減するための対策として、支援施設から「ウォーキングカンファレンス」の有効性について助言を得た。

「ウォーキングカンファレンス」とは

勤務開始時の情報収集について、従来の電子カルテによる情報収集に加えて、日勤者と夜勤者が勤務交代時に一緒にラウンドを行い、直接患者を看ながら情報共有・引き継ぎを行うこと

- ➡ 現在は始業時間前に電子カルテから患者の情報収集を行っているが、所用時間に個人差がある。ウォーキングカンファレンスを導入することで、就業時間内に効率よく情報収集ができるのではないかと考えた。また、個人レベルでの情報収集を集約し、時間削減ができると考えた。

Point!

効果的だった支援施設からの助言内容

- ✓ 情報収集においては、『電子カルテの中には患者はいない』『事件は現場で起きる』の考えで、電子カルテの情報のみではなく、実際に患者をみて状態を把握することが大切である。

■ ウォーキングカンファレンス導入にむけた準備

● ウォーキングカンファレンス導入のモデル病棟の決定

- ・ 時間外勤務時間が比較的少なく、所属長のリーダーシップがとれる等、協力体制をつくりやすいと考えられる病棟をモデル病棟に選定した。
- ・ 日勤の時間外勤務時間の削減を狙い、日勤→夜勤への引き継ぎ時から導入を開始。
支援施設では、日勤前のウォーキングカンファレンスから開始した。日勤前の時間外勤務削減の成功を体験したことで、夜勤前残業削減がスムーズに行えた。当施設ではハードルの高い夜勤帯から導入することで、今後全勤務帯での普及ができると考えた。

● モデル病棟スタッフへの説明

- ・ スタッフに対しては、電子カルテだけでなく、患者の生の情報と照らし合わせながら情報収集を行うことのメリットを伝えている。
- ・ 取組導入によるスタッフの懸念は、情報収集の時間が少なくなることであり情報収集の時間を保障することをスタッフに伝えた。

Point!

支援施設から助言のあった「スタッフへの説明のポイント」

- ✓ 情報収集の方法が変わることにスタッフは不安を抱くため、情報収集の時間確保のため、次の勤務に必要な情報の調査・そのための記録の整理など、前準備をすることが大切である。

■ ウォーキングカンファレンス導入にむけた準備の実施

● 効率的な情報収集にむけた記録の整理、記録方法の検討

- ・ 看護記録について、テンプレートやチェックリスト等を工夫して、記録の効率化を図った。
- ・ 日勤者・夜勤者各々の記録記載時間のタイムリミットを決めた。
- ・ モデル病棟の特徴として、術後の患者が多いため、ドレーンの観察ポイントなど、患者の具体的な観察項目を整理し、情報収集・情報共有する内容のポイントを明確にした。
- ・ 勤務者の交代について患者に周知する。

支援施設の「ウォーキングカンファレンス」の内容（例） ※日勤⇒夜勤の場合

- ・ 治療内容に対し、夜間帯にケア上注意すること
- ・ 日中患者から聞かれた困りごとなどに対し、医師に確認したこと
- ・ 夜間の排便や睡眠に関すること等、ケアをする上で夜勤帯に必要な内容
- ・ 基本的には電子カルテに記載されているものは言わない

Point!

勤務開始前の情報収集時間の確保について

- ✓ 情報収集の優先順位を考え、情報の内容は緊急性があり、重要度の高い内容とする。
- ✓ 看護ケアに関することは、ベッドサイドで患者の声を聴きながら情報共有を行う。

■ ウォーキングカンファレンス導入にむけた準備の実施

● ウォーキングカンファレンスに向けた業務整理

- ・ 時間外勤務の要因について調査したところ、始業前には、情報収集に加え、薬剤管理業務を行っていることが要因であると明らかになった。
- ・ 薬剤業務簡素化のため、「薬剤カートの変更」・「1使用1トレイ用の点滴カートの準備と運用」を決定した。

● 情報収集の時間の確保

- ・ 支援施設は、情報収集の時間を20分間確保し、中断しないようにしたとの助言を受け、情報収集にかかる時間を確保した。

● その他

- ・ 勤務者の交代について患者に周知した。

Point!

効果的だった支援施設からの助言内容

- ✓ 新たな取組を開始することは、様々な困難が生じるが、大切なことは、改革側がブレることなく、必要性を常に伝え続けること、評価を続けながら進捗管理を行うことである。

■ 目標に対する評価

- 試行期間内にはウォーキングカンファレンスの開始まではできなかったが、記録の整理や夜勤前の薬剤準備業務のスリム化に向けての他職種も含めて検討することができた
- ユニフォーム2色制導入と時間外勤務を減らすための業務改善によって、看護職や医師の勤務時間に対する意識が変わり、超過勤務時間が令和元年4～12月と令和2年の同時期比較で、1人あたり平均約1時間減少した
- 始業時間前の出勤状況の実態調査の結果、10月と12月を比較し、始業時間前1時間以上前の出勤者数が減少し、全体平均で8分始業前時間外勤務が削減された

試行に取組んだことへの、スタッフの反応

- ✓ 多くの部者からウォーキングカンファレンスを取り入れたいなど、今回の取り組みによりスタッフの意識が変わった。他職種からは取り組みに興味を持たれている。

- 試行期間でウォーキングカンファレンス導入にむけた様々な準備を行った。
今後、夜勤前のウォーキングカンファレンスを導入し、
モデル病棟で2021年3月までには始業前の勤務を30分以内に短縮したい。
(現在は約1時間前に来ているスタッフが多い)
- 夕方の時間帯の業務を見直し、整理することで
業務のスリム化と効率化を図りたい。
- モデル病棟で試行を成功させ、全病棟に拡大したい。
(グループ病院にも広げたい)
- 看護師の定数を見直して、現在夜勤は3人体制をとっているが、4人体制にして
さらなる時間外勤務時間の短縮に努めたい。
- 他職種との連携を深め、さらなる業務の効率化を図りたい。